



2014年  
2月25日  
NO.372

九州旅客鉄道労働組合

福岡市博多区博多駅前2丁目3-23

TEL 092-472-7950(代)

URL http://www.jr-krwu.org

発行人/許斐元文 編集人/木村智隆

第26回定期中央委員会

2014 春闘をはじめとする活動方針を決定

安全と組合員・家族の幸せを最優先に、運動の実践と継承を図る



許斐中央執行委員長あいさつ【要旨】  
アクリフーズ群馬工場で、同社の契約社員が偽計業務妨害の疑いで逮捕されました。理由のひとつに、会社の給与体系の変化があったと報道されていきました。2012年4月までは年功序列型だった給与体系が変更され、多くの従業員が給与が下がったと不満を持っており、彼もその一人だったのです。罪を犯すことは絶対にやってはいけないことです。しかし、このような不満がきっかけで犯した犯罪によ



第26回定期中央委員会 (2月7日 福岡市)

本部は、2月7日、福岡市「TKPガーデンシティ博多アネックス」において「第26回定期中央委員会」を開き、安全の確立、組織の強化・拡大、2014年春季生活闘争勝利、中間地方選挙勝利に向けた取り組みなど、当面する活動方針を決定した。  
2014春闘については、賃金実態調査の結果、2005年にJR連合が到達目標として設定した「必達目標賃金」(全産業1千人以上、男子高卒、中位数)に、ほとんどの年齢層で到達していない実態が明らかになっており、必達目標賃金への早期到達を目指して、純ベア3,000円の要求を決定。併せて、夏季手当3・0ヵ月分の要求も決定し、2014春闘勝利に向け組合員・家族・グループ労組が一丸となって取り組むことを確認した。

中央委員会には、執行部、中央委員、傍聴など約70名が出席。議長に宇佐学中央委員(福岡)を選出した。執行部を代表してあいさつに立った許斐中央執行委員長は、組合員・家族の負担に配慮するため、当面する主要課題として、①安全最優先の取り組み、②組織の強化・拡大の取り組み、③政策課題の取り組み、④2014春闘の取り組み、⑤次世代への継承の5点について所信を表明し、最後に、4月に施行される始末市議会議員選挙に立候補する上村親氏の必勝に向けた協力を要請した。2014春闘については、会社は「リーマンショック以来、厳しい経営環境に変わり

先輩から「受け継いできたもの」を見つめ直し、次世代へ受け継いでいく「継承元年」に!!

り、会社が倒産に追い込まれるかも知れない状況になるということです。  
私たちJR九州労組は、このような不満を抱かせないよう、組合員・家族の負担に配慮しなくてはなりません。そのような立場で、今年7月の定期大会開催までに取り組む課題について、5点にわたり申し上げます。

安全最優先の取り組み

私たちは、JR連合の方針に基づき「JR関係労働者の死亡事故ゼロ」「重大労災ゼロ」を目指し、今日まで様々な取り組みを展開してきました。しかし、全国的にみれば協会の社員の社員を中心に、死亡事故や重大労災事故が発生しています。九州においては、

組織の強化・拡大の取り組み

定期大会後9名の組合員が組織を脱退しました。特徴としては高齢者、いわゆる55才以上の方と60才再雇用者の方が脱退されていますが、殆どが経済的な理由を挙げられています。しかし、55才以上の賃金は、新制度発足時より少

政策課題の実現に向けた取り組み

しかし、このことは私たちも反省すべき点があったのではないかと考えています。今後も組織強化を図り、一企業・一労働組合の早期実現を目指し、しっかりと取り組んでいこうではありませんか。



議長に選出された宇佐委員

【要旨別掲】  
来賓では、高島喜信連合九州ブロック連絡会代表幹事(連合福岡会長)、越智直樹九州交通労務局長、村山弘行JR九州労務協議会議長、西村信夫福岡市議、上村親始良市議、板倉長男JR連合組織部長が出席、それぞれ連帯と激励の挨拶をいただいた。また、大分市を拠点に活動しているNPO法人「貧困村

自活自立支援ネットワーク」に対し、年末に取り組んだ支援カンパの贈呈を行い、許斐中央執行委員長が同法人の城下隆理事に目録を手渡した。  
質疑では、10名の中央委員、特別中央委員から、安全の確立、2014春闘、高齢者層の待遇改善、各種効率化施策への対応、今後の組織機構・運営方法の見直し等について発言があり、各担当部からの中間答弁、書記長集約答弁を経て、全議案が満場一致で採択された。

その後、委員宣誓を採択し、最後に許斐中央執行委員長の団結ガンバローで閉会した。

いて、ご協力いただくようお願いいたします。

もう一つの政策課題は、労働政策、すなわち労働条件を向上させる取り組みです。昨年7月に開催した第22回定期大会で提起したとおり、現在、政策委員会を中心に「2008年新ビジョン」に代わる新たな産業・労働政策ビジョンの策定に取り組んでおり、新たなビジョンの「骨子(案)」も提示されました。今後、具体的な取組内容と目標が盛り込まれ、本年7月に開催される第23回定期大会において最終案が提起されますので、組合員の皆さんから多くの意見・提言をいただくよう要請します。

2014春闘の取り組み

JR九州労組は、2008春闘の400円を最後に純ベアは取れていません。会社の主張としては「会社の経営状況は厳しく、特に、2008年の裏面につづく

# 10名の委員の建設的な発言で活動方針を補強

## 2014春闘は有額回答に拘った交渉を

佐藤 守洋 (大分)



▼2014春闘では「ベア獲得」するとの本部の決意が示された。大分地本も、2月22日に総決起集会を開催し、最後まで一緒に戦い抜く。

▼メンタルヘルスで悩んでいる組合員が増加傾向にある。長時間労働や過重労働が共通の原因であると考えている。一人ひとりの業務量が増加し、業務量に見合った適正な社員数となっていないのではないかと。不幸な社員を出さない取り組みを徹底させたい。

▼乗務員職場では勤務変更の

リーマンショック以来、厳しい経営状況に変わりはない。しかも物価は上昇しておらず、賃金のベースを上げることは困難である」と、この間言い続けてきました。

しかし、今後は物価の上昇や消費増税により組合員の生活に大きな負担が生じることは明らかです。また、今春闘は取り巻く環境からも組合員の期待はとて大きいと感じています。本部は、皆さんの期待に応えられるような良い成果を出せるよう、全力で取り組んで参りますので、各級機関役員、そして組合員・家族が一体となった取り組みが

展開できるよう、皆さんのご協力を強く要請します。

### 次世代への継承

新生「JR九州労組」が誕生して20年余りが経過した現在、JR九州発足以降の採用者数は組合員全体の40%以上を占めるほどになり、新たな展望を切り拓くために重要な存在となっています。

また、JR九州発足からの27年間では、働く環境や生活する環境も大きく変化しています。このような時代であるからこそ、次世代を担う若者に求められる課題は多く、若者の柔軟な発想と知恵が必要です。今後ともJR九州労組に

結果する仲間との絆を大切に、自分たちの未来を創造しながら、全員が同じ想いで、同じ方向へ進むためのアクションを起こしてくれることを望んでいます。

そういうことを踏まえ、今年度は、私達が諸先輩から「受け継いできたもの」を見つめ直し、次世代へしっかりと受け継いでいく「継承元年」にしたいと思っています。

最後に、本年4月に施行される始良市議会議員選挙に組織内候補として出馬される上村親氏の必勝に向けた取り組みをお願いし、あいさつとします。

## 賃金改善を全組合員へ

濱田 享二 (熊本)



▼2014春闘は、全組合員が大きな期待を抱いている。6年ぶりのベアの実施、基本賃金をはじめとする諸労働条

件の改善、夏季手当の満額回答、55才以上の社員に対する加算措置等、諸要求実現を。熊本地本も、2月8日にグループ労組も含めた「2014春闘勝利団結ポスター大会」を開催し、本部と共に闘っていく。

▼モニター制度適用条件が一部改善されたが、結婚を理由に実家や賃貸住宅に転居する場合についても適用となるよう引き続き改善を求める。

▼平成26年春ダイヤ改正における有明5号の運転区間の見直しに伴い、長洲と熊本間を回送運転することについて、熊本駅まで回送運転をするのであれば営業列車として運転するべきである。本部・本社間における課題解決を要請したい。

▼現在熊本乗務センターの車掌指導担当は1名配置である

が、業務多忙な状況である。今回の長崎乗務センター設置においては、2名の車掌指導担当を配属するとの会社回答を引き出した。熊本乗務センターにおいても2名の車掌指導担当の配置を強く求める。

## 来賓・メッセージ紹介

《来賓》

連合九州ブロック連絡会代表幹事(連合福岡会長) 高島 喜信

九州交通労働協事務局長 越智 直樹

JR九州労組議員団会議団長 村山 弘行

嬉野市議会議員 西村 信夫

始良市議会議員 上村 親

NPO法人「貧困村自活自立支援ネットワーク」理事 城下 隆

JR連合組織部長 柄窪 長男



高島喜信 連合九州ブロック代表幹事



越智直樹 九州交通労働協事務局長

JR北海道労働組合  
東海旅客鉄道労働組合  
西日本旅客鉄道労働組合  
四国旅客鉄道労働組合  
日本貨物鉄道産業界労働組合

《メッセージ》  
JR北海道労働組合  
東海旅客鉄道労働組合  
西日本旅客鉄道労働組合  
四国旅客鉄道労働組合  
日本貨物鉄道産業界労働組合  
ありがとうございます。



上村 親 始良市議



西村信夫 嬉野市議



村山弘行 JR九州労組議員団会議団長

## ビートル支援ツアーへの協力に感謝

井本 敏 (福岡)



▼昨年12月11・12日に実施したビートル支援ツアーへの多数の組合員の参加に感謝する。

## 西村嬉野市議選への協力に感謝

岩口 保則 (長崎)



▼嬉野市議会議員選挙に立候補した西村信夫候補は、長崎

このツアーを皮切りに、JR九州からも各職場単位での参加や「さくら咲く」の対象商品にも追加されるなどの支援策もなされた。しかし、他の輸送機関との価格競争、尖閣諸島及び竹島問題など、我々を取り巻く経営環境は依然として厳しい。今後も、ビートルブランドを守るため、安全・安定運航を最優先に経費削減等にも努めていく。引き続きJR九州高速船に対する支援をお願いする。

### 2014年春闘スローガン 最優秀・優秀作品

《最優秀賞》  
鹿児島地区連合分会(鹿児島地本)南新 春菜さん  
「明るく未来へ 掴もうベアスアップ」

《優秀賞》  
新幹線分会(鹿児島地本) 上飯屋浩二さん  
「今年こそ 我々の底力を 一致団結 春闘勝利」  
「合わせる意志! 見せる底力! 賃金向上 勝ち抜き春闘」  
多くの作品の応募ありがとうございました

NPO法人「貧困村自活自立支援ネットワーク」に対して支援カンパを贈呈

JR九州労組は、売血によってエイズが蔓延し、病氣と貧困の連鎖に陥ってしまった中国河南省文楼村の支援活動を行っているNPO法人「貧困村自活自立支援ネットワーク」に対する支援カンパに、この間取り組んでいます。

今年度も連合「愛のキャンパ」、オイスカ「海岸林再生プロジェクト」支援カンパと併せて取り組み、第26回定期中央委員会で許斐中央執行委員長から

同法人の城下理事に100万円の目録を手渡しました。

皆様のご協力に、心より感謝いたします。

許斐委員長が城下理事に目録を手渡す



城下 隆 NPO法人理事



柄窪長男 JR連合組織部長

## 青年・女性委員会の展望と次世代育成について

松下 雄太 (青・女)



▼青年・女性委員会の比率は40%を超えるまでに上昇し、歪な年齢構成も過渡期を迎え



第26回定期中央委員会

ている。平成35年には、JR九州労組組合員の平均年齢は37才、青年・女性委員会の比率は全体の50%を超え約3、500名の組織になると推定される。今後の役員育成のため、若手組合員育成プログラムの準備を進めている。また、青年・女性委員会に求められる活動や課題は一層増加することから、青年・女性委員会への専従役員1名配置を強く求める。

▼青年・女性委員会の現在の組織図は、中央本部、各地方本部及び各分会という基本組織の下に位置しているが、本部、地本及び各分会の青年・女性委員会を直接繋ぐことで、独自性や自由性を強く持ち、時代の変化への柔軟な対応が可能になると考える。

▼女性の組合活動への参画について、女性の目線に立った活動を行い女性役員の育成を進めるため、女性組合員への窓口を多く設ける活動をしていきたい。さらに、今後、青年委員会と女性委員会とに分かれ、幅広く活動できる組織になれば望ましいと考えており、基本組織の協力をお願いしたい。

**労使関係のあり方を問う**

上飯屋浩二（鹿児島）



▼「指宿のたまたま箱」の臨時列車を運行することが一部マスコミで報じられたが、我々はその件を新聞報道により初

めて知った。労働組合の存在が軽んじられているためであると感じており、労使関係のあり方が問われている。

▼駅体制の変更は、要員減、管理駅の業務量増等の問題だけでなく、地域密着及びサービス向上の観点からも課題が多く、政策課題解決のためにも、地元自治体の理解は必要であり、こうした点も含め課題の解決を求めたい。

▼2014春闘は、特にベアに注力した闘いをお願いする。福岡地区で2014春闘勝利中央総決起集会の開催が計画されているが、鹿児島地本においても同時に開催し、一体感のある集会とし、本部と共に最後まで闘う。

▼組合財政確立に向け、更なる経費の削減、組織機構の見直し等について、具体的な検討を行うようになっていくが、国際交流の見合わせも必要と考える。定期大会以降の具体的な経費削減策について明らかにされたい。

**検修職場の技術力確保と今後のあり方について**

川畑 哲実（福岡）



▼小倉総合車両センター出場直後の車両故障が多く発生しているのが、これは業務移管先であるグループ会社の社員構成や、担当業務の頻繁な変更による技術力不足に問題があるのではないかと、技術継承のため、移管した業務

の一部引き戻しを南福岡車両区と直方運輸センターで実施した。その際、先に業務移管を実施した上回り検査も併せて引き戻しを行ったにも係らず、上回り検査を移管した際に減となった要員は増えていないのが現状である。

▼1月末に55才の組合員が脱退の意向を示した。55才での基本給減額や社宅使用料の増など、経済的な理由であった。労働組合の求心力は労働条件の向上が重要であり、中央本部には、その求心力を高めるべく、2014春闘ではしっかり結果を残していただきたい。

**春闘を次代に繋ぐ運動に**

延時 勝敏（鹿児島）



▼規約の一部改正について、実施期日が記載されていないため、期日を明確にしてほしい。

▼長崎乗務センター化に伴う車掌指導担当は2名配置予定であるにも係らず、鹿児島乗務センター及び宮崎乗務センターには1名の配置であることは理解できない。

▼鹿児島地本では今年度から専従者1名で運営しているが、世話役活動等十分に果たせていないと考える。組織体制の見直しも必要であり、組織財政検討委員会の中で議論していただきたい。

▼近年、急速に役員の世代交代が求められているが、労働

組合の意義や、他労組の存在を若い世代に積極的に伝えていかなければならない。組織対策に奮闘している乗務員分会の三役に対する激励の意味を込めて、情報交換会を企画した。若手役員への指導も含め、中央本部の役員にも参加をお願いする。

▼若手の組合員に春闘運動の意味を理解してもらうため、2014春闘勝利総決起交流会の開催を計画している。その行程において、分かり易い春闘講座も実施したいと考えている。多くの機会を作り、人間として、また、組合員として成長に繋がるものと確信している。

▼鹿児島地区は無人駅が多く、管理駅においては、券売機の縮切りや清掃作業などに忙殺されている。また、ワンマン列車の運転士は、ドア扱いなどの作業に加え、お客さま対応など体力的にも精神的にも負担となっている。駅体制の変更にあたっては、ワンマン

**各委員からの発言に執行部が答弁**

要旨



北村執行委員

▼2014春闘について、多くの委員から発言があった。本部の決意も皆さんと同様であり、組合員の強い想いを背に受けて一生懸命頑張ってい

運動に係る見直しも併せ、改善に向けた協議を要請する。

▼新たなビジョンを作成しているところであるが、方針などが具体的に決まれば、ビジョンに対する意見交換会などを実施していただきたい。

**駅体制の見直し協議は丁寧におこなう**

久保田耕二（福岡）



▼この間、駅体制については、十分な労使協議を行ったうえで、高年齢者の職場の確保等の観点から一定の理解を示してきたものである。駅体制の変更は様々な課題が想定される施策であり、会社は丁寧な取り扱いをすべきである。本部の後押しをお願いする。

▼一列車運転速度制限基準（規格）の誤表記に対する緊急

申入れ」を見て愕然とした。安全を脅かす重大な事象であるにも係らず、組合に対して説明もなく、会社の安全確立に向けた姿勢を疑うばかりか、労使関係の根柢を揺るがしかねない事柄である。特に安全に係るものについては、引き続き会社に対して適切な改善を求めていかなければならない。

▼車掌職場における再度乗務の解消に向けたこれまでの我々の取り組みに対し、H26年3月ダイヤ改正では逆行した行路が作成されている。次回ダイヤ改正に向けて、再度乗務の解消に向け取り組んでいく。

▼株式市場向け様々な施策が行われているが、グループ会社に対し、出向負担割合の見直し説明が唐突であった。JR九州単体の収支を改善させるため、グループ会社へしわ寄せが来ているのではないかと、株式市場にあたっては、グループ会社も含めて同じ方向で取り組むべき事柄であり、

本部が提起している「安全」「サービス」そして「上場会社」に相応しい労働条件の観点から、一体的に進めていくべきである。

**支部結成後の検証と今後のあり方を検討**

田頭 正憲（福岡）



▼福岡地本では定期大会以降4ヶ月間で5名の脱退が発生した。福岡地本としても分会と連携を取り、これまで以上に努力しているところであり引き続き対策を講じていきたい。脱退の理由として、賃金の減等により組合費の支払いが困難なことが挙げられている。組合費について検討できるか答弁を求める。

▼昨年、支部体制を整備し6支部を結成した。今後の組織

機構見直しの検討にあたっては、執行権及び財政権を保有すべきとの声もあることから、そうした検証も行いながら提起していきたい。

▼駅体制の変更によって、乗務員の車内收受の業務が増加するなど、環境が整備されていない状況において、負担ばかりが増加する実態である。そうした環境整備を含め、整理を図って欲しい。

▼JR九州旅行支店等の廃止についてであるが、JR九州北九州団体旅行支店とJR九州旅行小倉支店の統合後ににおける要員の減及び業務量の増加については、精一杯取り組んでいただきたい。

▼春闘とは春季生活闘争の略であり、争って闘うものである。家族署名や決起集会も必要であるが、個人的な想いとしては、春闘一票投票を行い、ストライキも戦術の一つとして春闘を闘っていくべきと考える。

▼メンタルヘルスに係わる現状は、本部も認識している。効率化に伴う要員削減による業務量の増加や、生産性の向上により一部の社員にしわ寄せが来ること、管理者と社員のコミュニケーションが図れていないこと等により、誰にも相談できずに一人で悩んでしまうことが原因であると考えられる。労働時間の適正化と併せ取り組んでいきたい。

▼乗務員職場での勤務変更については、問題の所在を把握し、正確な要員査定の下に適切な要員を確保できているのか、まずは支社・地本間にお

いて十分な交渉を行ってほしい。本社・本部間においても、適正な要員配置について引き続き協議を行っていく。

▼女性寮の新設等については、必要な寮・社宅の確保は当然であるが、新設等については一定規模の女性社員がいることが前提であり、地方の現状を踏まえた検討が必要である。新たな政策ビジョンにおいて、寮及び社宅の位置付け、具体的改善内容等も議論しているところである。

▼モニター通勤の条件緩和については、昨年の労働協約改定交渉において一定の成果を

勝ち獲ることができた。更なる条件の緩和について、春闘要求では掲げないものの、来年度の労働協約改定要求には掲げる考えである。

▼有明5号の運転区間については、本部・本社間で協議を行ったものの終始並行線であった。熊本まで回送運転するのであれば、長洲終着とする根拠が不明確であり、お客さまの利便性から熊本まで営業列車として運行すべきであると強く主張している。なお、車掌経験者の副センター長への配置や、今後の勤務補助の配置の検討など、乗務センターの業務環境の一層の改善について裏面につづく

▽**い**ては、引き続き対応する考えを引き出している。

▽フリーゲージ対策委員会の設置については、今後検討していきたい。

▽**駅**体制の変更については、雇用の場の確保、安全、サービス、無人駅清掃や券売機の締切り等の管理業務、ワンマン運転時の取り扱いなど、解明すべき問題が山積していると考えており、会社として十分な考え方を持っていないければ提案を受けることはできない。本日の発言も踏まえ、会社と丁寧に協議を行い、慎重に対応していくことを約束する。

▽**労**使関係のあり方については、会社としても認識していると考えており、今後、組合に説明すべき事柄は確実に説明してもらえると信じている。

▽**若**手組合員育成プログラムについては、私共も教育部長の立場として、共に議論し、良いものを作り上げていきたい。

▽**検**修関係の課題については、詳しく話を聞かせていただき、必要な対応を講じていきたい。

▽**春**闘総決起集会は、各地本の代表の方が本部に対する想いや決意を述べ、署名を渡していたことになり、具体的なスケジュールを含め検討を行っているところである。

▽**長**崎乗務センターについては、要員の規模及び新規車掌の養成箇所等を勘案して2名の配置となっている。また熊本乗務センターについては指導車掌の1名増を要求しており、この間の協議の結果、一定の考えが示されたものであり、今後も当該地本と相談し

ながら進めていきたい。

▽**J R**九州旅行支店等の廃止については、現在、提案を受けている段階であるが、今後も納得できるまで丁寧に検討していきたい。



木村執行委員

▽**こ**の間の大きな経費削減策として、今年度実施した3名の専従役員削減がある。また、二年前より人事大会を除く定期大会については1日開催とすることとした。また、経費の削減に資するものであり、今後、次世代に繋げられる体制の構築を図るため、現在、組織体制の見直しについて具体的な検討を行っている。

なお、国際関係の取り組みについても、更なる経費削減の観点から検討を行っている。

▽**規**則の一部改正(案)の実施時期については、会計年度等の関係から2014年4月1日から改正したいと考えている。

▽**嘱**託再雇用社員の組合費や組織機能見直しとしての支部体制のあり方について発言があった。組織財政検討委員会において検討している最中であり、ご意見についてはその中で反映させていきたい。



上野副委員長

▽**若**手社員の組合脱退について、今後、そのような不幸な組合員を出さないための対策が必要であり、J R九州労組と他労組との違いを明確に示していかなければならない。また、長崎地本から高年齢者集会への参加要請もいただきたい。

たが、このような、現場で悩んでいる組合員との意見交換の場を多く設定していきたいと考えている。

▽**青**年・女性委員会の組織のあり方について、独立した組織体制を構築してほしいとの提案があったが、現在、組織財政検討委員会で財政問題や専従役員定数の問題について議論しており、長期的な視点に立ち検討を図っていきたい。



芦原副委員長

▽**メン**タルヘルスについては、2008新ビジョンの改定作業の中でも議論を行っており、メンタルヘルスの未然防止の観点から、職場内コミュニケーションを基軸とした防止策の検討を行っている。

べられたが、各地本においても数値目標の達成に向け、引き続き協力をお願いする。また、女性に対するアンケート調査を実施しており、2月末までに集約・分析を行っている。新たな取り組みとして学習会や、研修会を開催したいと考えており、併せて協力をお願いする。



大久保執行委員

▽**サ**マーフュースティバルの開催時期については、この間の担当者会議で決定してきたものであるが、止む無く期間中に実施できないのであれば、別の日の開催で良いと考えている。多くの組合員の親睦と、次世代役員育成という本来の目的に沿って、開催日も含め検討をお願いする。

**中原書記長集約答弁** 【要旨】



**【安全最優先の取り組みについて】**

安全の確立は、労使の垣根を越えて取り組まなければならない重要な課題である。J R北海道における安全管理体制の様々な事象は、改めて安全最優先の重要性を実感するも

のであった。職場のことを熟知し、職場の声を集約することができるとして、労使組合が、会社に是正を提起し、会社はその声を真摯に受け止め、改善すべきものは改善する作風をつくり上げることが、安全の確立という労使共通の目標に通じると考える。労働組合としてのチェック機能を発揮し、職場から安全を構築できるよ

うこれからも取り組んでいく。第22回定期大会以降幸いにして死亡事故は発生していないものの、重大労災事故であ

る墜落が3件発生した。原因については、単独作業や決められたルールが遵守されていないためであり、引き続き、グループ会社及び協力会社も視野に入れた安全確立の取り組みを強化していく。

【2014春闘について】  
2014春闘については、組合員の期待はこれまで以上に大きく、組合の存在意義そのものが問われる重要な闘いと認識している。本部の交渉を支える力は、会社施策に対しては経営基盤を積極的に支えていく協力の理念を持ち、全ての組合員がJ R九州労組の旗の下に一致団結して取り

組むという決意である。その一方で、組合員の協力により得た成果の配分上の対立については、毅然として対処する対立の理念を持ち、今春闘要求を公正な配分として勝ち獲っていかなければならない。

また、グループ労組への波及及び相乗効果を図ることも我々の役割であり、J R九州労組及びグループ労組が一体となった闘いを展開していく。【組織の強化・拡大の取り組みについて】  
組合の脱退に歯止めがかかっていない。その中でも、高年齢者の脱退については、経済的な負担を理由に脱退が増加

組むという決意である。その一方で、組合員の協力により得た成果の配分上の対立については、毅然として対処する対立の理念を持ち、今春闘要求を公正な配分として勝ち獲っていかなければならない。

また、グループ労組への波及及び相乗効果を図ることも我々の役割であり、J R九州労組及びグループ労組が一体となった闘いを展開していく。【組織の強化・拡大の取り組みについて】  
組合の脱退に歯止めがかかっていない。その中でも、高年齢者の脱退については、経済的な負担を理由に脱退が増加

**委員会宣言**

本日、私たちJ R九州労組は、福岡市「TKPガーデンシティ博多アネックス」において、第26回定期中央委員会を開催し、安全の確立、組織の強化・拡大、2014春季生活闘争勝利、各種政策課題の実現と中間地方選挙の勝利に向けた取り組みなどを柱とする、当面する活動方針を満場一致で決定し、以下の重要課題について、組織を挙げて全力で取り組む決意を固め合った。

第一に、昨年7月のシステム障害による大規模輸送障害や10月に判明した電柱ならびに重錘の建築限界支障などJ R九州の安全管理体制が問われる事象に加え、グループ会社における3件の墜落事故など未だ重大労災が発生している事態を真摯に受け止め、最重要課題である安全の確立に向け、「すべてのJ R関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を最重点テーマに掲げて、グループ労組と一体となった運動を展開する。

第二に、J R連合を基軸としたJ R労働界の一元化に向けて、引き続き、未加入者の一掃と他労組からの拡大、新規採用者の全員加入に取り組むとともに、すべてのJ R九州グループ会社での組合結成に向け取り組みを強化する。

第三に、2014春季生活闘争を取り巻く情勢は、国内需要が堅調に推移し、生産が緩やかに増加するなど日本経済に回復の兆しが見える一方、J R九州の経営状況は、株式上場を念頭に鉄道事業における収支改善に向けた経費削減や、通期見直しにおいて昨年を下回る営業利益を見通す会社の姿勢は堅く、例年以上に厳しいものと想定される。しかしながら、連合及びJ R連合の一翼を担い、組合員の生活向上と内需拡大による日本経済の真の再生を果たすべく、「純べア3,000円」をはじめとする要求実現に向け、組合員・家族・グループ労組が一丸となった統一闘争を展開する。

第四に、自民党政権下においても、J Rが抱える政策課題に変わりはなく、諸課題の解決に向けJ R連合と一体となって取り組むとともに、上場会社に相応しい労働条件の確立を目指し、「2008年新ビジョン」の総括と課題を踏まえたうえで、新たな政策ビジョンを策定する。

最後に、間近に迫った始末市議会議員選挙をはじめとする中間地方選挙において、私たちの運動に賛同いただく推薦候補者全員の当選に向け、組織を挙げて全力で取り組む。

私たちに課せられた多くの課題を今後も着実に解決しながら、次世代へ運動を継承しつつ、新たな未来を切り拓かなければならない。そのために組織の力を総結集し、積極果敢に取り組みしていくことを本委員会の総意としてここに明らかにする。

以上、宣言する。  
2014年2月7日

九州旅客鉄道労働組合  
第26回定期中央委員会

さらに、若手組合員の他労組への加入については、J R九州労組全体の課題として捉え、議論を行ってほしい。

来春には190名程度の新入社員が職場に配属される。今年も全員加入に向けた取り組みを確実に行っていただきたい。【政策課題の実現に向けた取り組みについて】  
J R三島・貨物に対する様々

な経営支援策については、この間、恒久化を目指し取り組みしてきたが、実現には至っていない。株式上場の有無を問わず、政治的な課題については引き続き、J R連合、J R連合国会議員懇談会及び21世紀の鉄道を考える議員フォーラムなどと連携を図り解決に取り組んでいく。

今年度は、2008年新ビジョンの最終年度を迎え、現在、新たなビジョンを策定すべく検討を始めており、次期定期大会での提起に向け取り組んでいく。

**【最後に】**

本部として提起を受けた多くの意見を真摯に受け止める。提案した活動経過及び運動方針(案)を満場一致で採択していただき、直面する運動課題に全力を傾注する考えである。また、次期定期大会に多くの成果を持ち寄ることを期待し、集約とする。